



2021年度 忠生地区 市政懇談会

次 第

[日時] 2021年10月27日 (水) 18:30~20:00

[場所] 忠生市民センターホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫
忠生地区町内会・自治会連合会会長 高橋 清人

○ 連合会長の挨拶

忠生地区町内会・自治会連合会 会長 高橋 清人

○ 市長の挨拶

町田市長 石阪 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

- 1 モノレール延伸計画の忠生地区ルートの早期確定 【都市づくり部】
- 2 忠生地区まちづくりを町田市次期5ヵ年計画に具体的に計上 【環境資源部】
- 3 境川の治水対策推進 【下水道部】
- 4 小田急延伸の新駅周辺まちづくり 【都市づくり部】
- 5 根岸交差点北側都道（旧芝溝街道）道路幅の拡幅について 【道路部】
- 6 駅前通り（忠生1300）の根岸町内会館入口バス停付近の調整池が溢水することによる住宅冠水防止対策実施について 【下水道部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 忠生地区町内会・自治会連合会 副会長 佐藤 臣一

2021年度 忠生地区 市政懇談会
議事録(要旨)

[日 時] 2021年10月27日(水) 18:30～20:00

[場 所] 忠生市民センター ホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

環境資源部長 野田 好章

環境資源部循環型施設建設担当部長 田中 耕一

道路部長 神蔵 重徳

都市づくり部長 萩野 功一

下水道部長 萩原 康義

政策経営部広報担当部長 遠藤 雅子

市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫

忠生地区町内会・自治会連合会長 ほか25名

事務局 市民部市民協働推進課(5名)

市民部忠生市民センター長

司会進行：市民協働推進担当部長

忠生地区町内会・自治会連合会会長

- 忠生地区町内会・自治会連合会長の挨拶
- 市長の挨拶
- 職員の紹介
- 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 モノレール延伸計画の忠生地区ルートの早期確定

当地区の最大の課題である交通問題の解決策として期待されているモノレール延伸について、いまだに導入路線が正式決定されていません。従前よりこの地域のまちづくりの前提として想定している、多摩市南野～小山田緑地～小山田桜台～桜美林大学～馬駟交差点のルートで早期に道路計画が決定されるようお願いします。

御高承のとおり、モノレール町田方面延伸については、2016年に整備路線に格上げされ、2019年10月には東京都に「多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会」が設置され、ルートの早期決定が図られる予定でしたが、いまだに実現していません。この地域のまちづくりの基軸となるモノレール延伸計画ルートが一日も早く確定されるよう東京都への強い要請をお願い致

します。

【回答】

都市づくり部長

町田市では、2022年3月策定予定の「町田市都市づくりのマスタープラン」におきまして、多摩都市モノレール町田方面延伸を前提とした計画策定に取り組んでいるところです。

ルートにつきましては、町田市におきましても、ご要望いただいている多摩市南野から小山田緑地、小山田桜台、桜美林大学を通り、馬駟交差点へ至るルートを想定しております。

モノレール沿線のまちづくりにつきましては、町田駅周辺、木曽山崎団地、忠生・北部の3つのエリアを、町田市全体の都市づくりをけん引するリーディングプロジェクトとして、検討を進めております。

東京都におきましては、次回ルート検討委員会開催に向けて、町田市が検討しているまちづくりや現在ある施設、里山などの資源を活用したモノレール需要の可能性と、バス網の再編などについて、複数あるルート案の比較検討を進めているところです。

東京都に対しましては、引き続き、ルート検討委員会の早期開催を強く要請し、ルートが1日も早く確定されるよう努めてまいります。

《質疑》

(司会) 地区連合会会長

ルート検討委員会は、近々再開されるというお話も聞こえてきていますが、その辺はいかがでございましょうか。

都市づくり部長

現在、東京都と調整しているところですが、早ければ年内に開催されるという予定で調整しています。

(司会) 地区連合会会長

年度内くらいに是非進展をみられるのではないかと、我々はひそかに期待していますので、さらに都に対するプッシュを今後ともよろしく願います。

2 忠生地区まちづくりを町田市次期5ヵ年計画に具体的に計上

忠生地域まちづくり「バリューアッププラン」及び「グランドデザイン」をベースにした諸事業については、2018年1月に町田市と地元のまちづくり

協議会が締結した「町田リサイクル文化センター周辺地域の整備推進に関する覚書」並びに2018年3月に町田市により策定された「熱回収施設等の周辺施設整備基本構想」に基づき、具体的な整備計画を作成し、町田市の次期5ヵ年計画に具体的に計上していただきたい。

特に、峠谷最終処分場及び旧埋立地跡地については、早期開設の要望の強いソフトボール場等のスポーツ公園と交通公園の整備を図るため、早期に最終処分場の閉鎖手続き及び土地整備工事等を完了するとともに施設の基本設計・実施設計を行い、上部公園整備工事を実施するようお願いいたします。

また、市の税収減を理由に緊急避難的に工事が中断されている池の辺地区のスポーツ公園化事業は、本来バイオエネルギーセンターと同時期完成を予定していたところで、早期に工事を再開していただきたい。

また、廃棄物処理施設の分散化の公約のもと、移転が遅れているビンカン処理施設は、お約束頂いた2027年に予定されている上小山田への移設が見通せていない状況であり、早急に代替地の検討を開始してください。

【回答】

環境資源部長

まず、バリューアッププラン及びグランドデザインをベースにした諸事業を次期5ヵ年計画に位置付けてもらいたいというご要望については、現在、市で財政見通しを勘案しながら、次期5ヵ年計画の事業選定を行っておりますので、その中で、各事業の位置付けを検討してまいります。

次に、峠谷最終処分場及び旧埋立地跡地に上部公園整備工事を実施することについては、その前提となる最終処分場埋立処分終了届の提出に向けての調整や検討を行うと共に、今年度中に峠谷地区へ土砂の埋め立てを開始できるよう進めております。

また、池の辺地区のスポーツ公園化事業の早期の工事再開については、2023年のオープンを目指して、整備工事を再開できるように検討を進めております。

そして、ビンカン処理施設の上小山田への移設に代わる代替地の検討については、現在、上小山田地区での事業に必要な用地の確保や関係機関等との協議・調整に時間を要している状況ですが、引き続き、2027年度を稼働目標年度として、上小山田地区での整備を進めてまいります。

今後の資源化施設整備について、代替地を含めて研究していきたいと考えております。

《質疑》

(司会) 地区連合会会長

確認ですが、今のお話で池の辺の2023年というのは完成ということで

しょうか。

環境資源部長

オープンとするという目標で調整しております。

(司会) 地区連合会会長

一点目に上小山田への移転の問題ですが、これは道路の問題が大きく残っていると認識しております。これを例えば、お約束いただいている2027年から逆算して工程を考えると、まだ用地買収も全く進んでいない状況の中では、工程的には無理だろうと思います。したがって、代替地の検討をある程度早めに着手していただかない限り、現在のビンカン施設は動かないということになります。これは非常に大きな問題で、そもそもごみ処理施設をここに移転して新しい施設を作るという条件のベースには、分散化という大きな命題があって、その分散化も言ってみればビンカン施設を移転するという約束になっています。その土地の問題等々で完成時期は、本来は同時でしたが、一番遅いのが2027年ということですが、もし代替地の検討が済んでいないとすれば、誰が考えてもおそらく2027年には無理だと思います。そうした中で、真剣に当初の約束を進めていただけるというお考えであれば、代替地の検討を早急に進めていただいて、2027年までに現在のここにあるビンカン施設をきちんと移転していただくような、そういうステップをぜひとっていただきたいと思います。

二点目のスポーツ公園の方の話ですが、これは町田市も参加して既に全体図ができあがっています。それをどう実現していこうかということでございます。池の辺は財政難ということもあり、仕方がないということでございますけれども、一応完成の目途もつきつつあるということでございます。それから峠谷の方も埋立がまもなく始まるということで、我々も非常に喜んでいますが、ただ、従来から非常に大きな問題でした旧埋立地について、これはどうするのだということは何年来の課題となっています。当初いろんな話がありましたけれども、とりあえず現状のまま、例えば表面を少し整備してスポーツ公園の構想の中で実現していこうということご理解しています。手続き問題等もあると思いますが、まだ実際の工程が見えてこないということで、これはもう少しスムーズに進んでもいいのではと感じます。リサイクルセンターの裏の埋立地は法規制があって、整備するには東京都ないし担当官庁の了解、認可を得なくてははいけません。それはその通りですが、旧埋立地についてはそういう制約が多分ないだろうと思います。そんな中でどうして処理が遅れているのか、一つには処理方針について少し遅れがあったのかなという気がします。既に全体構想ができ上がった中で、これをいかに早く進めていくかということは非常に大きな問題になっていますので、その計画を作っ

ていただいて、全体がきちんとしたスポーツ公園構想に合ったような形に一日も早くしていただけないかと我々は思っています。その点はいかがでしょうか。

循環型施設建設担当部長

一点目につきましては、循環型施設建設担当部長の私から回答させていただきます。資源化施設、上小山田の方が少し遅れている、2027年は厳しいのではないかというご意見でございます。実際に非常に厳しい状況に追い込まれているのは事実でございます。相原の資源化施設の現況でございますが、地権者の同意をいただいて、都市計画決定の手続きに向けて手続きを行っているところです。2025年度の稼働を目指しているところでございます。先ほどお話ありましたビンカンの早期移転については、お約束をしております2025年度に向けて鋭意努力をしております。代替地というお話もありましたけれども、その辺も検討の材料の一つであります。また、その他の手法についても、先ほど環境資源部長が答弁したように研究いたします。

環境資源部長

二点目については、環境資源部長の私が回答いたします。旧埋立地については、まず今の峠谷を埋めるというところからスタートになり、その後にある程度埋め終わった後から調査等で東京都との調整が始まります。スムーズに進めば当然前倒しということになります。上部利用をすることになりますので、中の汚染調査をしっかりとやりたいということになれば、調査を行います。併せて、皆さんもご存じのとおり、埋立地についても当然下にごみ等が埋まっている状況がありますので、そこも丁寧に安全対策のチェックを行います。市長からも一日でも早く進めるようにと指示もいただいております。私もこの間東京都に行って調整を始めています。ただ、埋め始めてからのスタートで調整をしていくことになりますので、スケジュール感が出た段階で、どのぐらいの量か、この分短くなるだとか、暫定で何か提案はできないかなど、様々なアイデアを考えているところです。また日を改めてご報告をさせていただきたいと思っております。

(司会) 地区連合会会長

一朝一夕にはいかないであろうと、非常に難しさがあるのは理解しているつもりですが、それにしても遅いというのが正直な感想です。情報を逐次流していただいて、市としては努力していることを我々も理解できるような形にさせていただきたいと思っております。

忠生忠霊地区自治会

資源化施設について、確かに忠生579号は道路がなかなかできないです。これはよく見てみると、リニアの立坑の近くです。忠生579号が仮にできなくとも、例えば今このリニアの土を排出するために二本の道路ができています。579号ができるまでに、二本の道路をうまく活用して、資源化施設を作ることは十分可能ではないかと思っています。しかも、リニアで土を出しているわけですからその土をうまく利用すれば材料も生まれてくると思います。そうしたときのことも、先ほどの代替地の検討と同時に、現実的な方策を考えてもらいたい。そうすると579号ができるまでの暫定的なものとして、立派な道路なので十分活用できると思います。そういったものを有効活用することもぜひ検討していただきたいと思います。

循環型施設建設担当部長

今現在、リニアの方で道路ができたというところと、それから仮設の道路ということで、橋脚の形で作られているかと思っています。まだそれは完全にできていない状態で、病院の手前で確か止まっている状況かと思っています。実際問題として、上小山田の資源化施設を作る予定地の高さから橋脚までの高さというのは、非常に高低差があるような現状でございます。いずれにしてもそういうところを含めて検討をいたします。

3 境川の治水対策推進

昨今全国的に異常気象が頻発し、今年も各地で過去例を見ない集中豪雨が発生しています。境川については、旧来の時間35ミリ対応のまま放置され、年々洪水の危険が増加しています。

御高承のとおり、境川は2012年に東京都の重点整備河川に指定され、時間降雨量65mmまでの整備をすることに決定していますが、その後進展がありません。

実際に大きな被害が出なければ抜本的な対策はなされないのでしょうか？また、東京都は数か所の調整池を設置し、一部は工事中ですが、仮に65mm降雨が起こった場合、何時間何分の水量が貯水可能なのでしょうか？是非住民にわかり易く説明してください。また下流の調整池で上流に起こっている溢水は防げるのでしょうか。さらに調整池の運用ルールは定められているのでしょうか。

【回答】

下水道部長

境川の治水対策推進について、お答えします。

まず、調節池の機能について、ご説明いたします。調節池とは、河川の氾濫を防ぐため、流しきれない水を一時的に貯めておく施設のことをいいます。

東京都は2012年11月に「中小河川における都の整備方針」を策定し、河川の整備水準を時間50ミリメートルから境川を含む多摩部の河川は時間65ミリメートルに引き上げました。時間50ミリメートルを超える部分は調節池等により対応することを基本とし、公園などの公共空間を活用して効率的な整備を行うこととしています。

この方針に基づき、東京都は、現在、町田市内で「境川木曽東調節池」と「境川金森調節池」の2箇所の整備を進めています。「境川木曽東調節池」は、2025年度内の暫定的な取水を目指しています。また、「境川金森調節池」は2026年3月の事業完了予定で、その後、稼働開始すると東京都から聞いております。

これらの貯水量は、「境川木曽東調節池」が4.9万立方メートル、「境川金森調節池」が15.1万立方メートルとなります。

貯水可能な時間については、1時間当たり65ミリメートルの雨が境川流域全体に一様に降った場合、取水開始から「境川木曽東調節池」が約1時間で、「境川金森調節池」が約2時間で満杯になることを想定しています。

調節池を造ることによる上流域への効果としては、河川改修や河底の掘り下げに先行して調節池を整備することで、下流側に河川の未整備区間があっても上流側の安全性の向上が図れます。

この2箇所の調節池の運用は、豪雨により河川の水位が上昇すると、河川から溢れた水が自然に調節池へ流れ、貯留した水は、河川の水位が低下してからポンプを用いて放流する構造となっています。

また、神奈川県による2021年度の境川の改修状況について、都県境の下流を管理している神奈川県厚木土木事務所及び神奈川県藤沢土木事務所に2021年8月に確認しました。河川改修工事を進めていることや、住宅が河に近接しているところについては、拡幅が困難なため、河川のバイパスを検討していることを確認しました。

今後も、境川の河川管理者である神奈川県や東京都に対して、調節池などを含めた河川の早期改修を要請してまいります。

《質疑》

根岸町内会

今年も大雨が降った時に、境川の水面と道路の境が30センチメートルくらいのところまで来ていました。それで避難警報が出ていたのかと思います。

根岸、矢部に住んでいる人間からしてみますと、河川に面しているところの住民はいつそういうことで境川が溢れるかどうか、いつも心配なわけです。全国的に天気の異常がありまして、どこもかしこも大雨が降ったりして、河川が氾濫しているという状況をニュース等で目のあたりにしますと、境川もいつ氾濫するかいつも心配している次第です。そういう中で、毎年要望事項をお出ししているにも関わらずなかなか工事が進みません。昔から比べれば、河川改修されて曲がっていた川がまっすぐになってきてはいますが、それにしてもまだ危険性が多分にあるわけです。そういうことから住民の安心安全を守るためにも、早急な工事をお願いしたいと思います。新中里橋から下流方向につきましては、川の底上げをされている状況がありますが、新中里橋から根岸橋の間は一向に手がつけられていないという状況です。そこに住んでいる者は大変危惧しております。なぜ工事ができないのか、工事の日程がどうなっているのか、そういった情報を住んでいる地域の住民には知らせていただきたいと思います。

下水道部長

今いただきましたご意見ご要望について、河川に関する工事説明という点につきましては、河川管理者の東京都とか神奈川県に、地域への説明というのを要望要請してまいります。新中里橋をはさんで上下流の区域において、川底の土砂の掘削というお話がありましたけれども、境川というのはこの忠生地域についてはおおむね時間50ミリメートルの改修の幅があります。ところが、下流域の流下能力というのは時間30ミリメートル程度で、川底を50ミリメートルの流下能力まで掘り下げることがまだできません。実は東京都のところも神奈川県のところも川底の掘り起こし、川底を掘り下げるといことは、どちらも今まだやっていません。これから先に町田市堺よりも下流の神奈川県管理区間の改修が終わった段階で順次下流から掘り下げるとい話を聞いております。既に50ミリメートルの幅はありますが、断面流下能力としては30ミリメートル程度にとどまっております。

根岸町内会

今はまだ川の掘り下げをやっていないというお話ですが、中里橋から下流の方で重機が入って川の中を掘っているのは、あれは掘り下げではないのでしょうか。

下水道部長

東京都や神奈川県が所々境川の土砂を整地したり、もしくは一部排出したりということをしています。それは能力を上げるためにやっているのではなくて、流下能力30ミリに満たない部分の土砂の堆積部分について、通常の

維持管理のお仕事として土砂を排出していると聞いています。

(司会) 地区連合会会長

たまった土砂をどけていただけということですか。また、先ほどお話しの下流から少し川底を掘ってという話は、下流というのは一番河口のことですか。

下水道部長

そうです。境川は江の島が最下流になりますけれども、境川の下流で一番ネックとなっている代表的なところが2箇所ございます。藤沢駅の周辺、それから相鉄線との交差部分。この2箇所が非常に狭いです。河川の流下能力という部分では非常に落ちるというところで、ここがネック部分になっています。2箇所とも神奈川県が整備とか改修方法を検討しているところです。特に、相鉄線の交差部分については改修工事に順次着手しております。

(司会) 地区連合会会長

それから上流に来るとなると、相当な時間がかかります。なんとか打開する手立てはないものかと思います。それから、先ほどの金森と木曽の二つの調節池は水位設定がされると思います。水位設定がされて、それがいっぱいになった時、上流はどのような姿になるのかということはおわかりですか。要するに、木曽と金森の調節池は、それなりのオーバーフロー対策で、ある程度は水を逃がす仕組みになっていますよね。水を逃がすまでどんどん水は増えます。それで状況は大丈夫なんでしょうか。水を逃がすまでに上流で溢れるのであれば、忠生地区はやっぱり溢れるのではないかという危惧が残ります。そのあたりの関連は調べてありますか。

下水道部長

木曽東の調節池と金森の調節池は川の真横に造っています。川の水位が上がってくると、住宅地の方に流れないように、横にある調節池の方に流れ込むように造られています。下流の水位も下げることができますし、上流の流れも助けるという役目を持っています。川の水位をとにかく一時的にでも下げるという効果を持っていますので、東京都の施工している2箇所の調節池、それから今年度で工事が完了すると言われて相原の風間遊水地の貯留量からすると効果は出てきます。

(司会) 地区連合会会長

調節池を造った近くで、水が溢れるということはないと思いますけれども、もうちょっと上はどうなるのだろうかということが心配です。例えば、金森の

調節池が溢水になる設定値は、溢水になるまでくればもう上流は、オーバーフローするという設定値なのではないでしょうか。是非今後検討してもらって、もしその設定値が忠生地区まで影響するのであれば、どのような影響があるのか調べていただいて、教えていただきたいと思います。

下水道部長

東京都の調節池が完了したときに、この忠生地域が具体的にどうなっていくのか、東京都の方にも聞いて調べます。

4 小田急延伸の新駅周辺まちづくり

小田急線の新駅は小山田にできることとなっていますが、その後延伸計画全体の進捗状況はどうなっていますか？また、新駅周辺のまちづくり計画を住民参加の上で、詳しく設定する必要があります。特に駅周辺のまちづくり、交通拠点としての機能の確保、例えばバスの折り返し場やタクシー待機場所の設置などは交通問題の解消にむけての重要事項です。きちんとした将来計画を早急に策定していただきたい。

【回答】

都市づくり部長

小田急多摩線の延伸につきましては、国や東京都、沿線自治体、鉄道事業者などから成る「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」におきまして、交通政策審議会の答申で示された収支採算性等の課題解決に向けて、延伸線の線形や縦断面及び交差構造物の関係整理などの検討を行っております。

延伸にあたりましては、収支採算性の向上に大きく寄与する相模総合補給廠一部返還地のまちづくりが不可欠であり、その動向を注視しながら進めているところです。

町田市内の新駅周辺のまちづくりにつきましては、2016年3月に、新駅を中心とした小山田周辺の目指すべき将来の姿を示した、『小山田周辺まちづくり構想』を策定しております。

この構想は、鉄道駅の新設という大きな契機を捉えて、鉄道延伸の取組と連動して進めていくこととしており、2022年3月に策定予定の「町田市都市づくりのマスタープラン」におきましても、拠点や地区の整備等に関する関連計画として、位置付けてまいります。

今後も、延伸事業の動向に合わせて、地域にお住まいの方や地権者の方々と調整させていただき、計画的・段階的にまちづくりを進めてまいります。

《質疑》

(司会) 地区連合会会長

この新駅も我々は非常に期待をしております。相当昔から忠生に駅をということをお願いしたところでございますけれども、新駅ができそうだというところまで来ています。その先が今のお話のように、沿線開発等も含めて経済性も含めて、なかなか絵が描き切れていないという状態にあることはよく存じ上げていると思います。ただ、この鉄道事業を始めとする地域構想も非常に長期間にわたるような計画だと思しますので、是非粘り強くやっていただくとともに、その駅の周辺を核とした街づくり、あるいは交通体系の見直しという絵を、具体的に作っていくということが、長期的街づくりにとって極めて大切な問題ではないかと思えます。

5 根岸交差点北側都道（旧芝溝街道）道路幅の拡幅について

根岸交差点北側都道（旧芝溝街道）道路について、現況幅8mを歩車道区分の12m幅に拡幅願いたい。

以下の事由により、引続き東京都に働きかけをし、市も連携協力して整備をお願いしたい。

この根岸交差点から馬駟交差点までの道路については、市施行の町田都市計画忠生土地区画整理事業の第一工区（1965年～1978年施工）地内の該当地域であったが、当時、町3・4・18号線（新芝溝街道）が施工されることや新たに第二工区（1985年2012年施工）地内に小学校が予定されていることなどから、事業対象道路とされず拡幅されませんでした。

その後、第二工区地内施工では、旧芝溝街道の根岸交差点から南側は幅員12m（車道と両側歩道）の道路拡幅工事が実施されましたが、市の事由で小学校予定用地は売却により大型商業施設が立地され小学校ができませんでした。

しかし、現況において、南側の土地区画開発竣工や新忠生市民センター開設などによって、一般車両や人の交通量の増大は勿論、とりわけ、本町内から忠生小学校に通う生徒・児童も多く、この道路は片側だけガードレールがありますが狭隘で大変危険な通学路になっています。

また、根岸交差点は図師方面から町田バスセンター方面に左折するバスやトラックが歩道ギリギリを通るため、小学校（特に低学年）にとってとても危険な状況となっています。老人会や子供会、町内会で下校時の見守りをしていますが、抜本的な交差点改良をお願いします。

【回答】

道路部長

5 「根岸交差点北側道路の拡幅について」お答えします。

馬駟交差点から根岸交差点までの道路は、町田市が管理する市道忠生1248号線になります。道路幅員は約8m～12mであり、歩行者空間としては、西側には車道外側線、東側にはガードレールで防護された歩道を設置しております。東側の歩道については、一部の区間で有効幅員1.5m以下の箇所がございますが、現在の沿道土地利用状況等から拡幅は難しい状況です。

昨年の市政懇談会を受け、現地の安全対策として、2020年12月に根岸交差点に向かう下り車線に、視覚的に自動車の速度を落とさせる路面標示として減速ドットの設置と、交差点の直近にポストコーンを設置し、そして、西側の車道外側線が薄くなっていたため引き直しを行いました。

さらに、歩行者空間確保のため、歩道の有効幅員が約0.9mと狭くなっている箇所について、2020年11月に地権者へ建物外側の植樹帯を歩行空間として活用させていただきたい旨お願いしましたが、協力が得られませんでした。

また、根岸交差点の安全対策に関する要望につきましては、道路管理者である東京都南多摩東部建設事務所に申し伝えており、今後左折車の巻き込み対策などについて具体的に調整していきます。

《質疑》

根岸町内会

長年、何回も改良のことをお願いにあがっていますが、なかなか改良されません。町内会長になってから、月何回か根岸の交差点に立って、子どもの登下校の見守りをしてはいますが、実際に見ていてこの危険性というものを肌で感じています。狭くなっているところは線を引かれたとしても、下からバスが上がってくる、大型トラックが上がってくるという時には、線を踏んで車が曲がってくるわけです。そこを小学生が歩いています。そういう状況を見ると、こんな状況でいいのでしょうか。千葉県でダンプが突っ込んで、何人かお亡くなりになった事故がありましたが、あのような事故が起きないと対策がされないのかなという危機感を感じております。また、根岸の交差点の信号のところですが、図師の方から町田バスセンターの方に左折するところに、確かにコーンが立っていますが、そのコーンが立っているところから曲った信号のところまでは何もありません。大人だったら線のところでも待つかもしれませんが、小学生は学校の帰りがけに友達とふざけたり話したりしながら帰ります。信号待ちの時もコーンをいじったり、ガードレールところに行ったりとかでじっとしていません。また、自転車が来るとガードレールを越えて道路の方へ出るわけです。そういうことがすごく気がかりで、これ

は何とかしなければと危惧しているわけです。特に左折するときには大型車が歩道の近くまで上がってきます。あるいは信号で止まっていると、その信号の左脇を通過していき車があります。そうするとその交差点の脇まで、歩道まで乗りあげて通過していき車も多々あります。そういうことがありますので、計画はされていると思いますが、早急な対策をしていただければと思います。計画の中で確かに長期プランを立てますが、実際に何度もお願いしていますので、長期プランの中にも入れていただければと思います。

道路部長

左折の巻き込みにつきましては、我々も現地を見ておりまして、東京都と具体的な方策について調整をしているところでございます。左折の時に、巻き込み防止策として、車が歩道に近寄らないように、物理的に邪魔をするポストコーンを一本立てました。それを追加することを東京都と調整しています。交通安全につきましては、長期的な考え方もあると思いますが、まずは、このような具体的な動きを一步ずつ進めてまいります。

図師町内会

今のことと関係ありませんが、お聞きしたいことがあります。例えば、旧住宅を建て替えるときにセットバックをさせることは指導していないのですか。というのは、中学校の前にバス停あります。そこの脇にアパートがありましたが、その建物を壊して2軒ばかり住宅建ちました。従来通りに住宅が建っているの、道路が前と同じ幅です。ああいうのを例えばセットバックさせて、1メートル、1メートル50なり、歩道を確保するという指示はできませんか。あそこが下がればバス停も下がるし広くなります。これはいろんな場所に出てきています。例えば、河川工事の場合、河川工事になる地域に、建築を許可して建っていると、そういうことが多いです。こういうのは市でセットバックして建てろというご指導はしてないのでしょうか。

都市づくり部長

都市づくり部からお答えします。一般的に道路のセットバックは、狭隘な道路、4メートル未満の道路のときに、建物を建てる時は中心から2メートル下がる基準がございます。下がった土地自体は本人がお持ちになっても結構ですが、中心から2メートル下がった場所を道路の境界としてみなすという定めがあります。今回のような二車線の道路につきましては、幅員が確保されているためセットバックする必要はございません。下がるケースとしてもう一つあるのは、宅地開発をする場合や、中高層の大きな建物を建てる時です。この場合、基本的には中心から最大で3メートル下がらなさいということになり、両側で下がると6メートルの道路になります。しかし、

今この道路は二車線ございますので、セットバックは適用されず、指導はできないという状況でございます。

(司会) 地区連合会会長

規定ではそういうことだと思いますが、安全面やその他の面で大きな問題を抱えているという部分については、そういう規則がなくても逐次建て替えないし移転するような場合には、何とかならないか交渉を是非積極的にしていただきたいと思います。恐らくいろんな場所があるでしょうから、地元としても都市づくり部に、情報を上げるようにしますので、是非交渉していただければと思います。

都市づくり部長

情報をいただいて、我々も安全面とかさまざまな観点から建築主さんをお願いしていくということは可能だと思いますので、適時情報提供をお願いします。

6 駅前通り（忠生1300）の根岸町内会館入口バス停付近の調整池が溢水することによる住宅冠水防止対策実施について

数年前に忠生1300号線（駅前通り）のバス路線町田17系統の「根岸町内会館入口」バス停付近にある調整池が大雨で溢れ、付近の住宅地や畑に浸水したことがありましたが、近頃の天気概況などを見ても、今後も大雨が降る可能性が大きいため早急な対策を講じて頂きたい。

調整池の容量は50mm/hと聞いておりますが、最近の天候では50mm/h以上の雨量を越すことが多くなっており、再び住宅地等が浸水することのないような早急な対策をお願いします。

【回答】

下水道部長

駅前通り（忠生1300）の根岸町内会館入口バス停付近の調整池が溢水することによる住宅冠水防止対策実施についてお答えします。

まず、議題にあります調整池は、駅前通り（忠生1300号線）の山根橋北交差点から消防団第4分団第4部の消防器具置場がある交差点と、境川に挟まれた1区画すべてが調整池となっており、「根岸からさわ調整池」という名称です。（資料1－案内図）この調整池の一部は、「根岸からさわ公園」として上部を利用しています。（資料2－調整池航空写真）また、この調整池の機能としては、雨水を一時的に貯めて河川へ少しずつ時間をかけて流すことにより、洪水被害の発生を抑制する施設です。この調整池の敷地面積

は約8,630平方メートル、貯留容量は約20,420立方メートルとなっており、25メートルプールに換算すると約68杯分に相当します。

ご指摘がありました大雨ですが、2008（平成20）年8月29日に降ったものです。その際、調整池が溢れ、道路冠水や宅地等への浸水の被害が発生しました。当時の調整池は、忠生土地区画整理事業中で、現在の調整池の半分程度の容量で暫定的な整備でした。

調整池が溢水した原因としましては、時間雨量105ミリメートルの猛烈な雨が忠生地区に降ったこと、また、境川の水位の上昇により、満水になった調整池の雨水が境川へ流れづらくなったことによるものです。その後、忠生区画整理事業により浸水被害の軽減を図るため拡充工事を行い、1時間当たりの降雨量60ミリメートルに対応した、現在の調整池の貯留容量となりました。

町田市では、調整池の機能を保つため、月1回の頻度で点検を行っており、ゴミ等の堆積により、貯留や排水機能を損なう恐れがある場合は、清掃も行っております。また、台風や大雨が予想される際にも適宜、点検や清掃を行っております。今後も適切な維持管理に努めてまいります。

また、境川につきましては、河川管理者である神奈川県や東京都に対して、調節池などを含めた河川の早期改修について要請してまいります。これらの取り組みを進めながら、忠生地区を含む境川流域の治水安全度の向上を目指してまいります。

《質疑》

根岸町内会

根岸地区はこのような問題が多々起きているので、何とかそれを解決していきたいと思ひましてご質問いたします。調整池につきましては、2008年の8月とお話がありましたが、2011年か2012年の時に、114ミリメートルの大雨が降って調整池が溢れました。先ほどの地図ですと、北側に建設会社がありますが、その床上まで浸水したという状況を覚えていません。そういった状況があつて、境川自体が溢れないかどうか、境川が溢れそうになった時にこの調整池の方で調整ができるのかどうか。今現在、10年前くらいと比べると、先ほどの調整池があつた南東の方向に住宅地がいっぱい建てこんでいるわけです。そういった方々の生活の安全、財産の安全を考えると、もう二度と調整池が溢れ出て水が出ないようにしてほしいと願ひます。境川の問題とも関連してくるので、境川が溢れそうになった時に本当にその調整池で調整できるのでしょうか。先ほど、調節池も造ってらっしゃるというお話でしたが、それは下流の関係であつて、上流についても本当に安全が保てるのか、すごく心配なので早急な対策をお願いしたいというところで要望を出しました。

下水道部長

根岸からさわ調整池は、宅地に降った水を境川に一気に流すのではなく、宅地に降った雨を貯めて徐々に境川に流す施設です。境川が溢れるのを防いでいる施設は調節池といった施設です。この調整池という施設は川から溢れる水をとるためではなくて、宅地の水を貯めて川が溢れないようにする機能を持っております。機能的には今もご説明したとおり、時間雨量60ミリメートルです。忠生地区については、調整池がいくつかございます。矢部にもございますし、根岸公園の下にもそういう機能がありますが、忠生地区については、時間60ミリメートルの雨を貯めておける調整池が整備されています。ただ、残念ながら、境川の能力としては時間30ミリメートルというのが今のところの能力となっております。

根岸町内会

調整して境川に流すから、境川が溢れたらその水を流せません。境川の流れを調整するということを行っているのではなくて、境川が当然溢れてくれば、調整池に貯まった水を境川に流すことはできません。その状態が続けば調整池から水が溢れてくることも考えられるわけです。その辺のところも検討していただければとお願いしています。

(司会) 地区連合会会長

その点については、全体的な水量の関係になると思うので、調査していただいて、現状をまたご連絡いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

下水道部長

境川に流せる量というのはいろいろ決まっていますので、今一度、調節池の機能ですとか、雨量のことを先ほども2012年、3年という話もありましたので、もう一度調べ直して、町内会長にも連絡させていただければと思います。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

今年の市政懇談会では皆様に「2021年度 市政懇談会 市政報告概要」という資料をお配りしています。

去年、今年と新型コロナウイルスが流行し、今年の夏には都内の感染者が1日5,000人という数字が出ています。どういう対策をしてきたか、感染防止対策はもちろんしておりますので記載しておりませんが、実際に行った

対策について10項目くらい記載しました。

最初に書かれているのは特別定額給付金です。昨年4月、5月に行った1人10万円の給付金です。町田市内約432億円の金額でした。

その他に子育て世帯に対して1万円の給付金や、中小企業に対して家賃補助を行いました。

去年の12月から今年の1月にかけてはPayPayと連携して、キャッシュレスプレミアム事業も行いました。

最後の項目をご覧ください。ワクチン接種事業については、昨日現在で12歳以上の全人口比約76.1%2回目の接種が終わっています。高齢者は約91.2%の方が終わっています。

この地域でも活発に活動がありました。〇ごと大作戦は、参加人数の目標は100万人でしたが、実際は200万人となりました。たくさんの方に参加していただきました。

先ほども話がありました多摩都市モノレール整備は、11月2日の都知事との意見交換の場で要望を行います。また、11月5日にも三多摩で構成する多摩地域都市モノレール等建設促進協議会の要望活動の中で、東京都に要望を行います。

熱回収施設は、お話があったとおり、上小山田のビンカン施設は2027年度までにはできないと考えております。当初22年度までには移転すると計画していましたが、25年度まで延ばしました。それをもう一回延ばすことはいかなるものかと、私自身も思っています。相原は進めていますが、相原に全部の資源が行くことはないの、今検討を始めています。

最近の事業ですが、中学校の全員給食を計画しています。忠生地区ですと、旧忠生第六小学校跡地で計画しています。また、体育館を整備する計画もあります。ここも24年度から25年度の内には始める予定です。

《質疑》なし

○閉会の挨拶

忠生地区町内会・自治会連合会 副会長